

## 岩手県経済発展に尽力

おお  
太 田 幸五郎  
た  
こうごろう

お物見公園（前沢区）の西隅に、大きな碑が建っている。これは、前沢の出身で岩手県経済界の中心的人物であった太田幸五郎の業績を伝えるために建てられたものである。

幸五郎は、一八六八年（明治元年）十二月、屋号（商店、家などの呼び名）「太幸家」の五代目として前沢に生まれた。盛岡銀行取締役、岩手県農工銀行頭取（銀行の代表者）を務めたほか、現岩手銀行の設立や北日本相互銀行の前身である岩手無尽株式会社設立時の中心的役割を果たした。

また、地域住民の体育熱の向上に伴い、現在お物見公園となっている三・八ヘクタール余をグラウンド用地として寄付したほか、前沢と衣川を結ぶ昭和国道開通にも尽力（力を尽くすこと）した。

一九一〇年（明治四十三年）、幸五郎は住宅を新築している。現在「太幸邸」とも呼ばれるこの建物は、当時、日露戦争の不況や大凶作によって生活に苦しんでいた地域住民を救うために建てられ

た。いわゆる、「お助け普請（建築工事を行うこと）」というものである。このため、材料はすべて地元産を用いている。大工、左官、建具職などの技術者、人夫（土木工事などの力仕事を行う労働者）なども、できるだけ地元の人を雇い、お金を地域に還元（もとに戻す）する方法をとった。

幸五郎は、太幸邸の庭の造園にも地元産の樹木や庭石を用いるとともに莫大な費用をかけている。その中でも、平泉の文化遺産である白鳥館から移した梅の木は、運搬するために延べ二百九十四人の人夫がかかわり、食糧費なども含めると、たくさんのお金が使われている。ここにも、お金を地域に還元し、苦しい生活をしている地域住民を救済する考え方がうかがえる。

太幸邸は、明治期の近代和風建築（一六〇〇坪の敷地に主屋、前座敷、土蔵、門、塀、庭園がある）の民家として、岩手県指定有形文化財第一号の指定を受けている。

\*参考文献

『岩手県姓氏歴史人物大辞典』

『前沢歴史散歩 ―前沢の文化財―』

『前沢町史下巻』

角川書店

鈴木 透 著

前沢町史編集委員会



太幸邸（前沢区）



太田幸五郎翁顕彰碑（前沢区お物見公園）